

# 留学生交流支援制度／海外留学支援制度 評価・分析（フォローアップ）調査報告書 （平成27(2015)年6月29日） 概要

留学生交流支援制度／海外留学支援制度  
評価分析委員会  
独立行政法人 日本学生支援機構

## 報告書の目次

1. はじめに
2. 留学生交流支援制度／海外留学支援制度の評価・分析（フォローアップ）の概要
  - (1) 評価・分析（フォローアップ）調査実施に至る経緯
    - ア. 留学生交流支援制度の行政事業レビュー
    - イ. 海外留学支援制度（平成26年度以降）の概要
  - (2) 評価・分析（フォローアップ）調査の実施方針・計画
  - (3) 実施体制（評価分析委員会。同ワーキンググループ）
3. 短期派遣・ショートビジットに関する調査（平成25年度）
  - (1) 調査計画
  - (2) 書面審査・支援対象大学等への訪問調査
  - (3) 平成23/24年度支援対象大学等・学生への追加アンケート
  - (4) 事例報告会の開催
4. 短期受入れに関する調査（平成26年度）
  - (1) 調査計画
  - (2) 支援対象大学等への訪問調査
  - (3) 平成25年度支援対象大学等・学生への追加アンケート
5. 海外留学支援制度への提言
6. おわりに

・平成23・24(2011・2012)年度留学生交流支援制度（短期派遣・ショートビジット）追加アンケート調査分析

・平成25(2013)年度留学生交流支援制度（短期受入れ）追加アンケート調査分析

『留学生交流支援制度』評価分析委員会  
ワーキンググループ

(明治大学横田雅弘（主査）、一橋大学太田浩、東京外国語大学岡田昭人、駒澤大学坪井健、明治大学新田功、名古屋大学野水勉、および日本学生支援機構 留学生事業部海外留学支援課事務的サポート)

派遣  
2011・2012

アンケート結果の大学等高等教育機関種別の回収数と全体の回収率

	2011派遣						2012派遣					
	ショートビジット(3ヶ月未満)			短期派遣(3ヶ月-1年)			ショートビジット(3ヶ月未満)			短期派遣(3ヶ月-1年)		
	回答校数	回答人数	機関別割合	回答校数	回答人数	機関別割合	回答校数	回答人数	機関別割合	回答校数	回答人数	機関別割合
国立大学	63校	1112人	(35.8%)	50校	202人	(41.0%)	62校	1611人	(44.0%)	53校	349人	(35.2%)
公立大学	11校	117人	(3.8%)	7校	11人	(2.2%)	8校	109人	(3.0%)	8校	26人	(2.6%)
私立大学	87校	1801人	(58.0%)	68校	276人	(56.0%)	70校	1829人	(49.9%)	72校	607人	(61.2%)
短期大学	1校	7人	(0.2%)	1校	2人	(0.4%)	2校	25人	(0.7%)	0校	0人	(0.0%)
高等専門学校	8校	69人	(2.2%)	2校	2人	(0.4%)	11校	89人	(2.4%)	4校	10人	(1.0%)
合計	175校	3106人		119校	493人		141校	3663人		128校	992人	
実績人数	229校	14248人			1635人		195校	12891人		302校	2488人	
回答率	21.8%			30.2%			28.4%			39.9%		
回答者の男女比率 (男性/女性)	39.8%/59.9%			33.3%/66.7%			44.3%/54.5%			33.2%/66.8%		

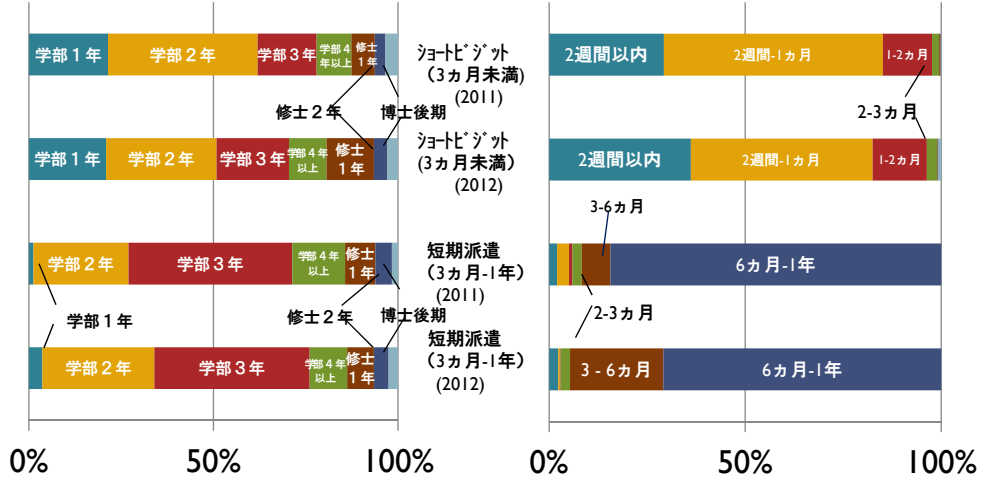
受入2013

	2013受入れ					
	3カ月未満			3カ月以上		
	回答校数	回答人数	機関別割合	回答校数	回答人数	機関別割合
国立大学	44校	712人	(63.9%)	45校	743人	(65.2%)
公立大学	3校	50人	(4.5%)	4校	48人	(4.2%)
私立大学	22校	308人	(27.6%)	27校	328人	(28.8%)
短期大学	1校	2人	(0.2%)	0校	0人	(0.0%)
高等専門学校	6校	42人	(3.8%)	4校	21人	(1.8%)
専修学校専門課程	0校	0人	(0.0%)	0校	0人	(0.0%)
合計	76校	1114人		80校	1140人	
実績		3221人			2227人	
回答率	34.6%			51.2%		
回答者の男女比率 (男性/女性)	43.8%/56.1%			40.4%/59.5%		

## 留学・研修の開始学年と期間

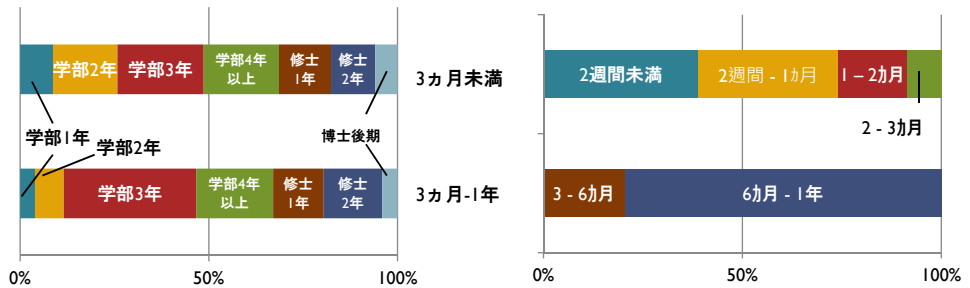
(a) 留学・研修の開始学年(大学のみ対象)

(b) 留学・研修期間



派遣  
2011・2012

受入2013



派遣(2012)

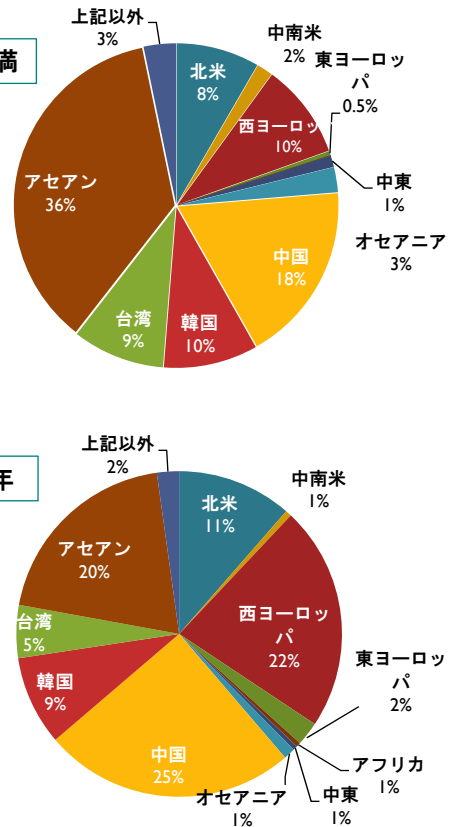
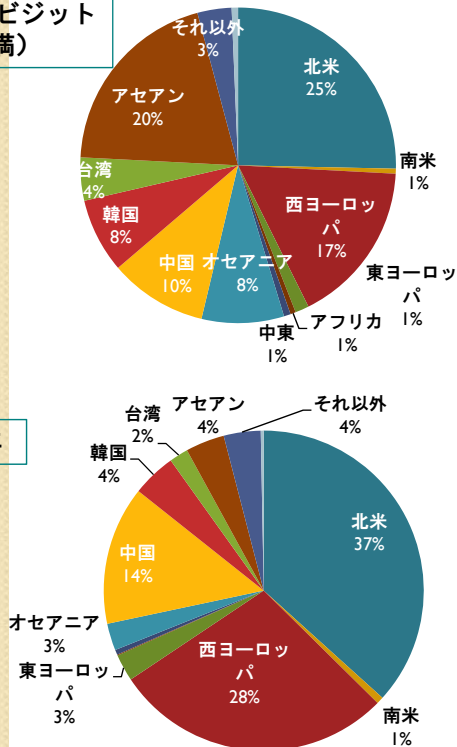
受入(2013)

ショートビジット  
(3か月未満)

3ヶ月未満

3か月-1年

3か月-1年



## 留学・研修先の地域

(a) 海外在住経験

(b) 海外旅行経験

(c) 海外旅行期間

<(b)で経験ありの場合>

ショートビジット  
(3カ月未満)

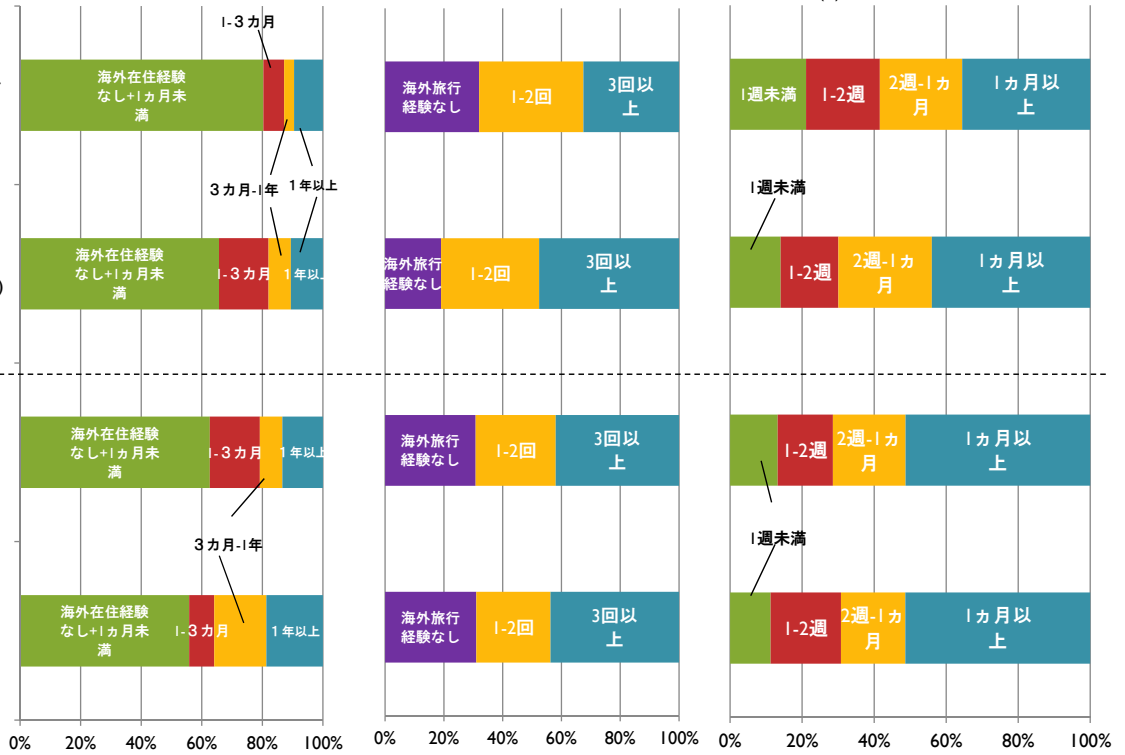
派遣2012

短期派遣  
(3カ月-1年)

短期受入  
(3カ月未満)

受入2013

短期受入  
(3カ月-1年)



支援学生の海外在住経験と海外旅行経験

留学前のオリエンテーション

派遣 2012

受入 2013

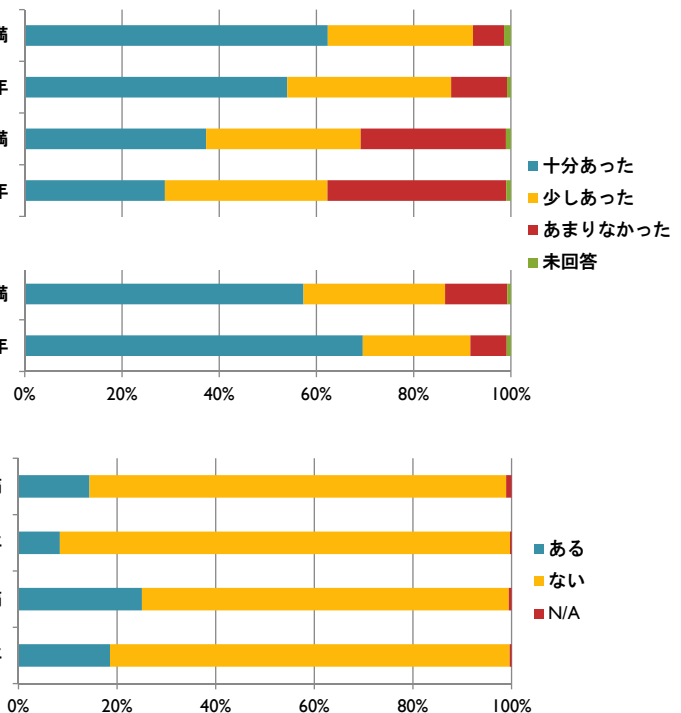
日本到着後のオリエンテーション

受入 2013

留学中のインターンシップ

派遣 2012

受入 2013



3カ月未満：文系12%に対して、理系学生は35%  
3カ月-1年：文系14%に対して、理系学生は31%

留学前・渡日直後のオリエンテーションとインターンシップ

# 派遣2012

## 学業関連

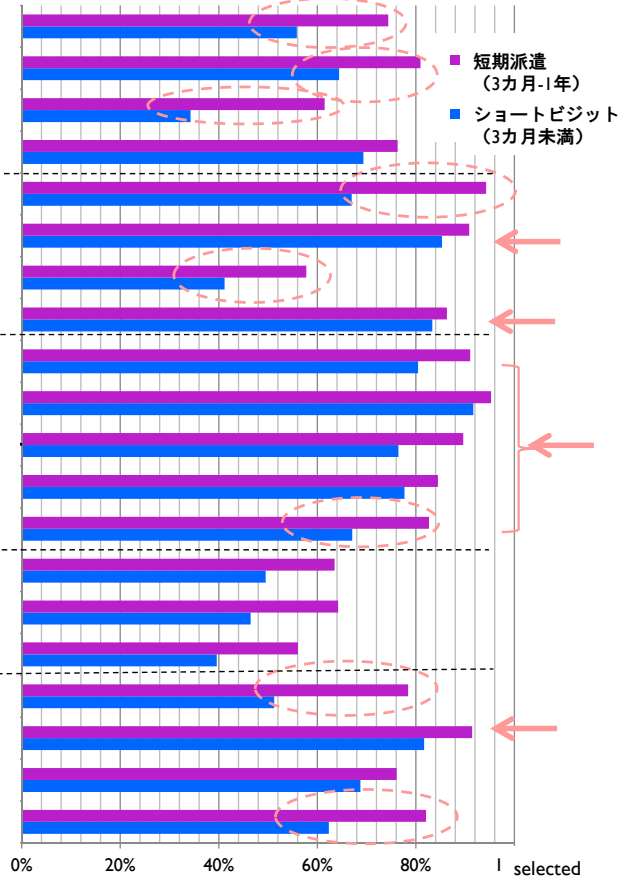
## 語学関連

## 異文化理解関連

## 進学・就職関連

## その他

- ① 専門分野の知識・資料収集
- ② 海外の学問の水準や方法の理解
- ③ 専門用語の習得
- ④ 専門の勉強へのモチベーションの向上
- ⑤ 語学力の向上
- ⑥ 外国語で発言する勇気や慣れ
- ⑦ 外国語での研究発表や議論の仕方の向上
- ⑧ 語学の勉強へのモチベーションの向上
- ⑨ 異文化間コミュニケーション力の向上
- ⑩ 生活習慣や文化の違いを肌で実感
- ⑪ 留学先国の学生・社会人との交流を通じた人間理解
- ⑫ 留学先国に関する知識の獲得
- ⑬ 日本文化・日本人としての自分についての意識向上
- ⑭ 進路や就職についての意識の向上
- ⑮ 将来の方向性をつかむきっかけ
- ⑯ 就活における強みの獲得
- ⑰ 困難を自力で乗り越える力量の向上
- ⑱ 視野の拡大(日本では得にくい視点の獲得)
- ⑲ 外向き志向(国際志向性)の高まり
- ⑳ 海外の人間関係・人脈の構築



留学・研修を経験して獲得した効果 (2012年度短期派遣・ショートビジット)  
(各項目について効果有りを選択した学生の割合を%で表示)

# 受入2013

## 学業関連

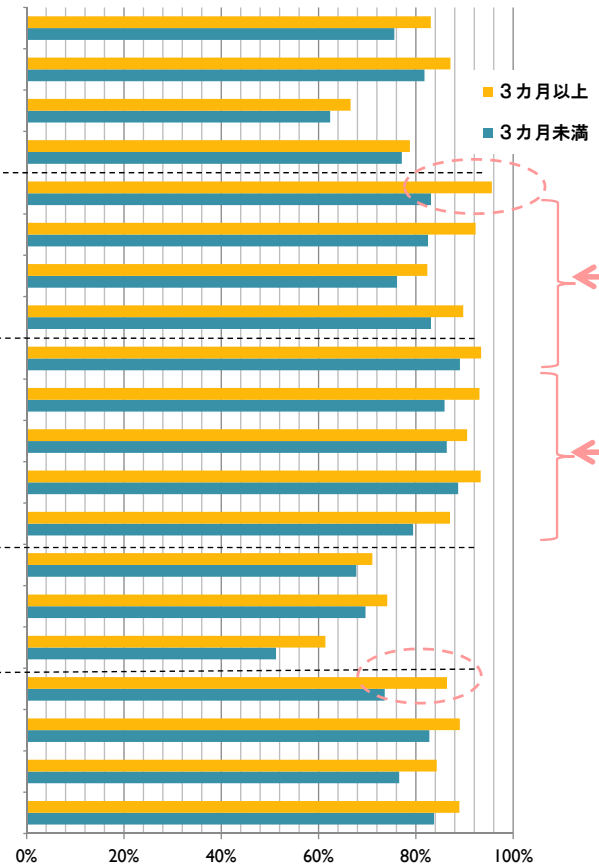
## 語学関連

## 異文化理解関連

## 進学・就職関連

## その他

- ① 専門分野の知識・資料収集
- ② 海外の学問の水準や方法の理解
- ③ 専門用語の習得
- ④ 専門の勉強へのモチベーションの向上
- ⑤ 語学力の向上
- ⑥ 外国語で発言する勇気や慣れ
- ⑦ 外国語での研究発表や議論の仕方の向上
- ⑧ 語学の勉強へのモチベーションの向上
- ⑨ 異文化間コミュニケーション力の向上
- ⑩ 生活習慣や文化の違いを肌で実感
- ⑪ 留学先国の学生・社会人との交流を通じた人間理解
- ⑫ 留学先国に関する知識の獲得
- ⑬ 日本文化・日本人としての自分についての意識向上
- ⑭ 進路や就職についての意識の向上
- ⑮ 将来の方向性をつかむきっかけ
- ⑯ 就活における強みの獲得
- ⑰ 困難を自力で乗り越える力量の向上
- ⑱ 視野の拡大(日本では得にくい視点の獲得)
- ⑲ 外向き志向(国際志向性)の高まり
- ⑳ 海外の人間関係・人脈の構築



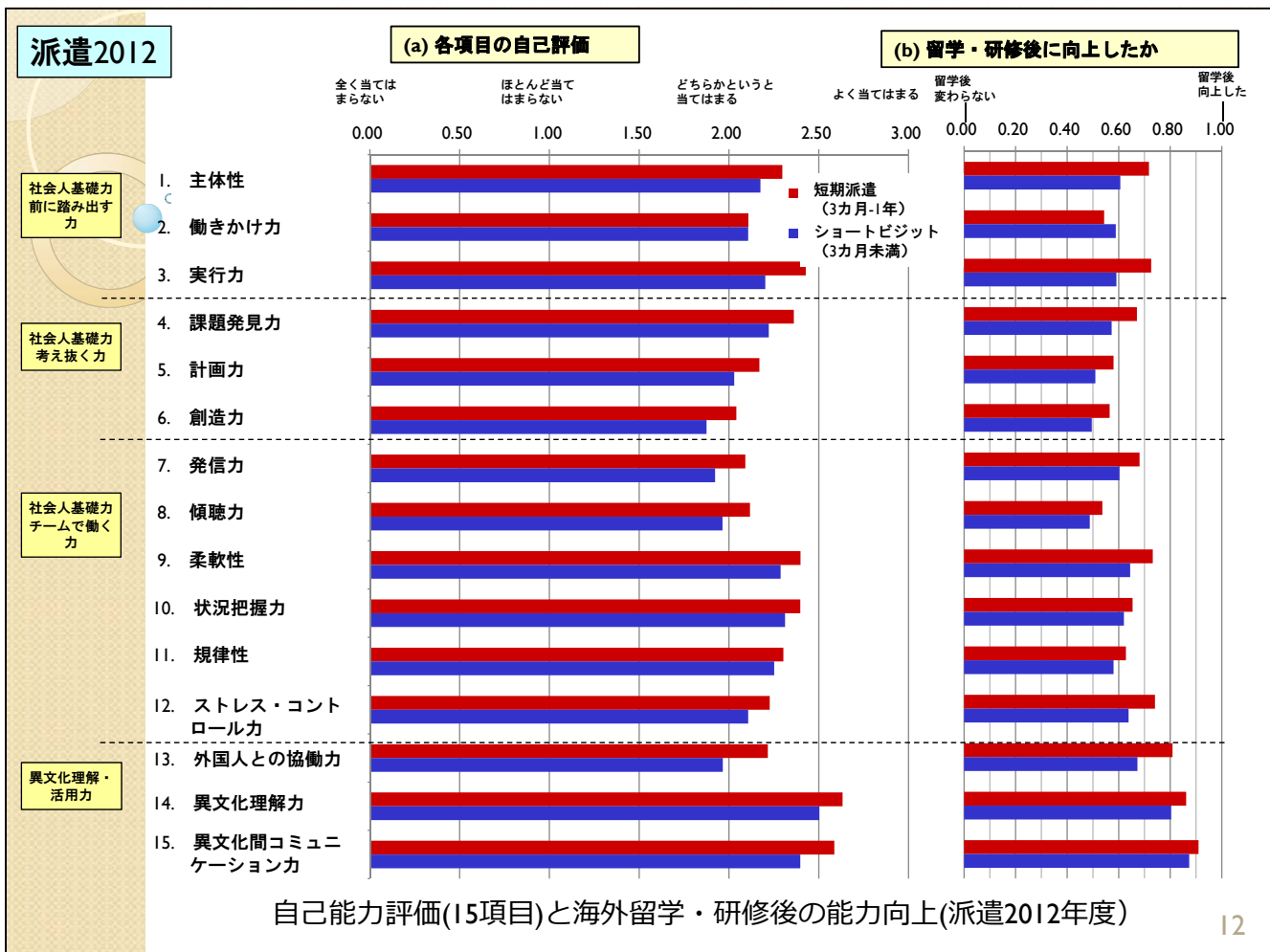
留学・研修を経験して獲得した効果 (2013年度留学受入)  
(各項目について効果有りを選択した学生の割合を%で表示)

社会人基礎力と異文化理解・活用力の自己評価項目

Self-evaluation of necessary workforce skills and cross cultural understanding & communication skills

*b 前に踏み出す力	1	主体性	自分からやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができる	Ability to take the initiative	I find issues myself that should be taken up and I am able to take initiative to tackle them.
	2	働きかけ力	仲間に働きかけて、問題点を一緒に改善するために行動することができる	Negotiation skills	I am able to approach friends or colleagues and work together with them to tackle the issues.
	3	実行力	自ら目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く行動することができる	Execution skills	I am able to set myself a goal and work patiently without fear of failure.
*c 考え抜く力	4	課題発見力	自分なりに現状分析して課題や問題点を具体的に提示することができる	Analysis skills	I am, in my own way, able to analyze the present situation and specifically identify issues or problems.
	5	計画力	課題に向けた解決プロセスを考え、計画的に実行することができる	Planning skills	I am able to work out processes for solving an issue and carry it out in a systematic way.
	6	創造力	既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい考えで、意見やアイデアを工夫して提案できる	Creativity	I am able to devise and propose new ideas or opinions to address an issue without being trapped by conventional viewpoints
*a 社会人基礎力	7	発信力	自分の意見を分かりやすく整理した上で相手に理解してもらえよう的確に伝えることができる	Self-expression skills	I am able to organize my opinion to make them easy to understand, and precisely express them, so that other people can understand them
	8	傾聴力	相手の話しやすい環境を作り、適切なタイミングで相手の意見を引き出すことができる	Communication skills	I am able to create an environment that encourages other people to express themselves and draw out their opinions at the right time
	9	柔軟性	自分の意見ややり方に固執せず、相手の意見や立場を尊重して柔軟に対応できる	Flexibility	I am able to respond to other people with flexibility, respecting their opinions and position, without insisting on my own opinions or methods.
*d チームで働く力	10	状況把握力	チームで仕事をするとき、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解することができる	Situation judgement skills	When working as a part of a team, I am able to understand the relationship between myself and other members and surrounding matters
	11	規律性	その場のルールや手続きに従って自らの行動や発言を適切にすることができる	Compliance skills	I am able to act and speak in an appropriate manner in accordance with the rules or procedures of any place or occasion.
	12	ストレス・コントロール力	ストレス状況におかれても、自分の成長機会だとポジティブにとらえ、前向きに対処することができる	Stress control skills	I am able to approach stressful situations for personal growth, and respond in a constructive manner.
*e 異文化理解・活用力	13	外国人との協働能力	日本人や他国の留学生との協働作業においても、その意思決定作業に参加し、自分の役割を果たすことができる	International cooperation skills	When working with Japanese or international students, I am able to get involved in decision making and play a cooperative role.
	14	異文化理解力	日本人や他国の留学生の行動が奇妙に思っても、それを良し悪しで判断せず、文化的な差異ではないかと疑って	Cross cultural understanding skills	I do not judge the behavior of Japanese or international students to be good or bad, even if it appears strange, because there may be cultural differences.
	15	異文化間コミュニケーション力	不十分な語学力であっても、なんとか意味を伝えようと積極的に発信することができる	Cross cultural communication skills	I try hard to convey what I mean and communicate without hesitation, even though my command of the language is insufficient.

Note. \*a: 社会人基礎力 necessary workforce skills, \*b: 前に踏み出す力 active skills, \*c: 考え抜く力 thinking skills, \*d: チームで働く力 team work skills, \*e: 異文化理解・活用力 cross-cultural understanding & communication skills



受入2013

(a) 各項目の自己評価

(b) 留学・研修後に向上したか

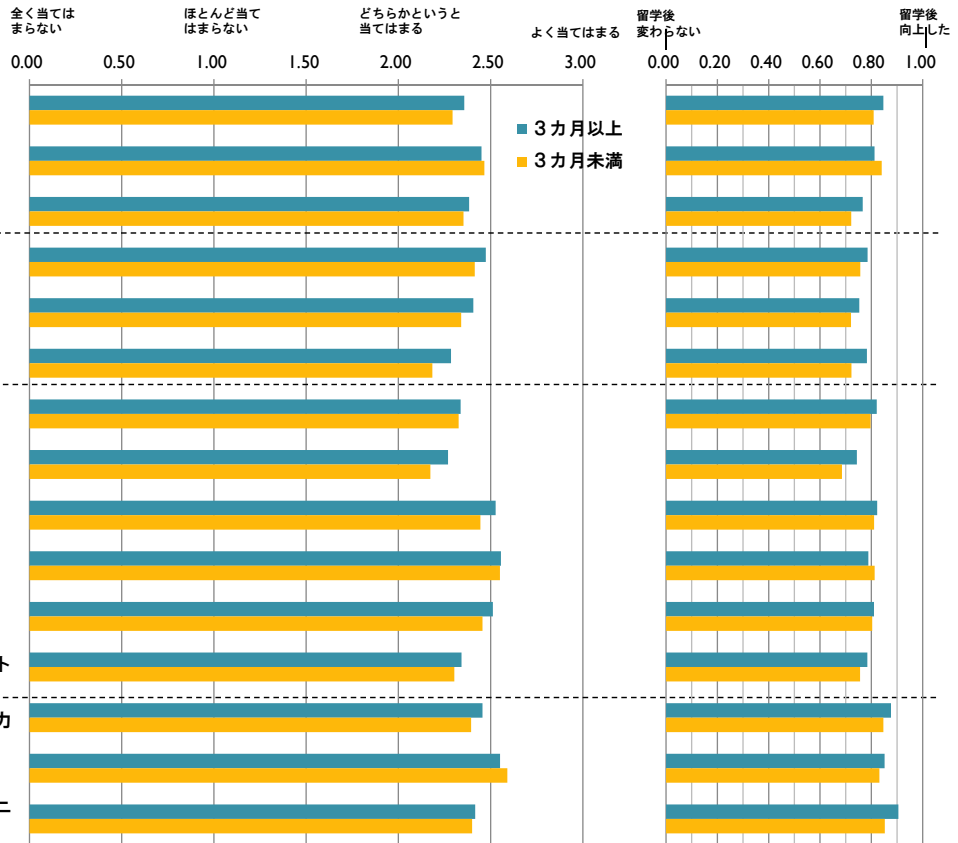
社会人基礎力  
前に踏み出す力

社会人基礎力  
考え抜く力

社会人基礎力  
チームで働く力

異文化理解・  
活用力

1. 主体性
2. 働きかけ力
3. 実行力
4. 課題発見力
5. 計画力
6. 創造力
7. 発信力
8. 傾聴力
9. 柔軟性
10. 状況把握力
11. 規律性
12. ストレス・コントロール力
13. 外国人との協働力
14. 異文化理解力
15. 異文化間コミュニケーション力



自己能力評価(15項目)と海外留学・研修後の能力向上 (2013年度受入)

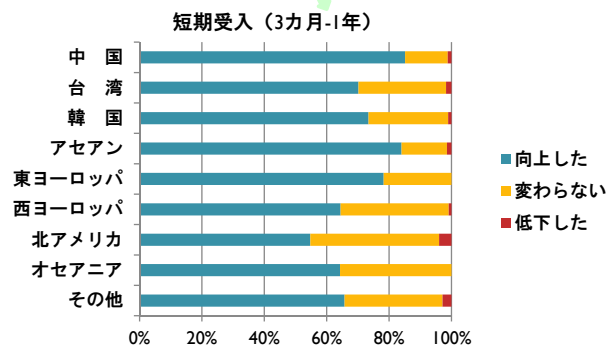
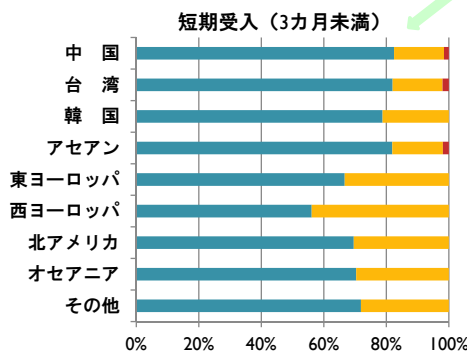
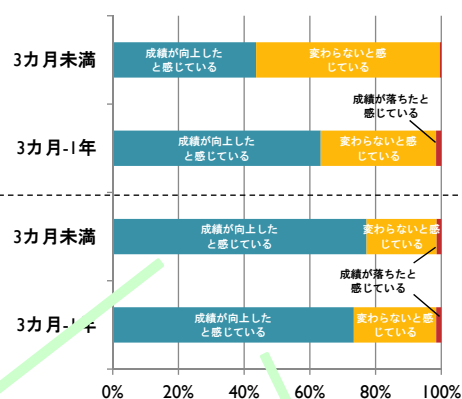
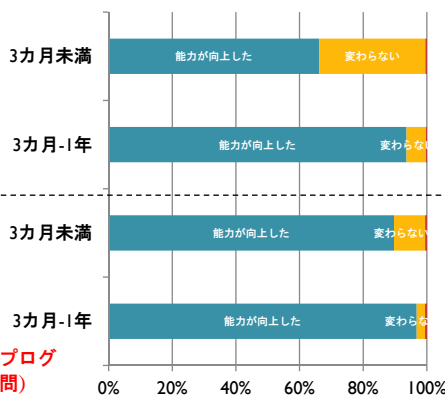
派遣2012

受入2013

(語学力は日本語研修プログラム参加者のみに質問)

(a) 語学力

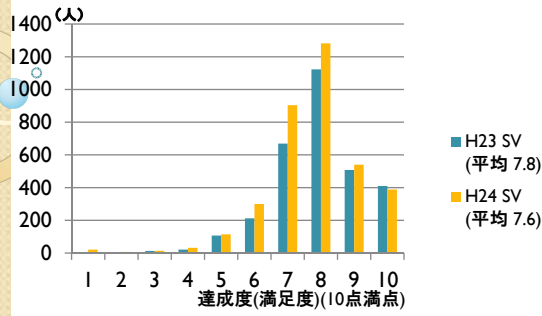
(b) 学業成績・研究成果



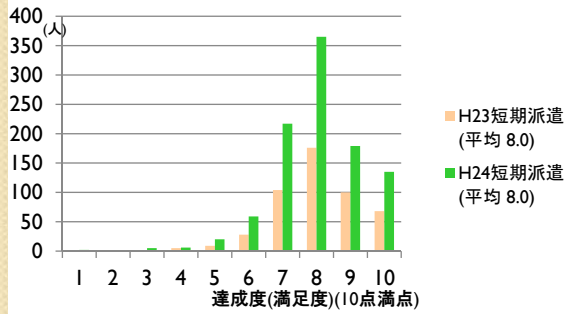
留学・研修後の語学力と学業成績・研究成果の向上

## 派遣2011・2012

### ショートビジット (3カ月未満)

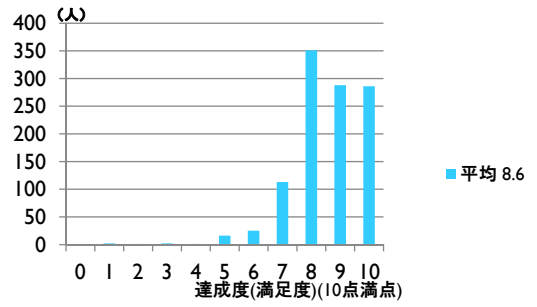


### 短期派遣 (3カ月 - 1年)

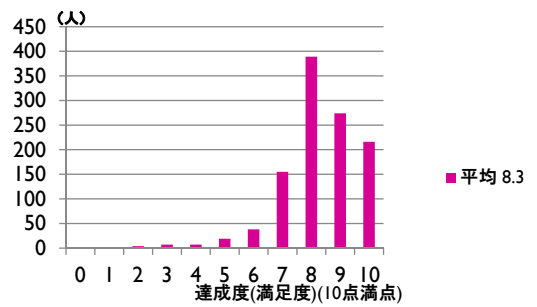


## 受入2013

### 短期受入 (3ヶ月未満)



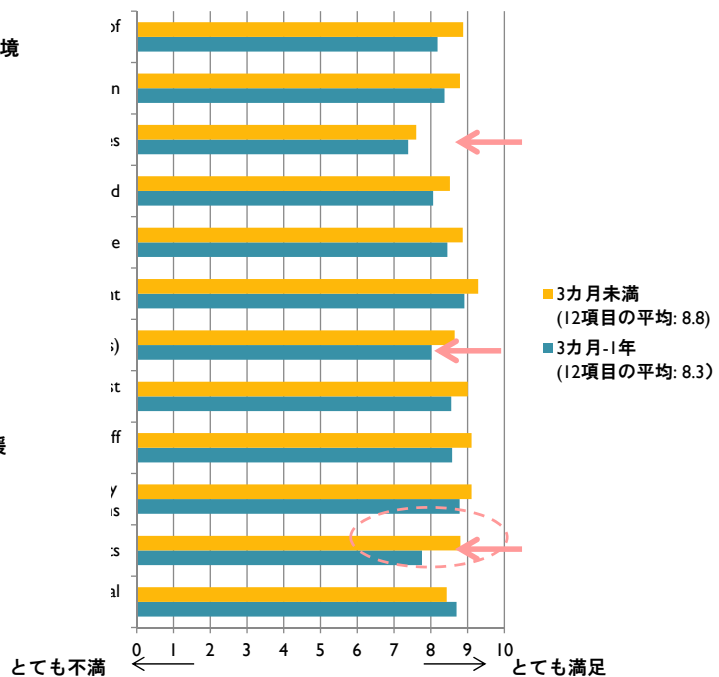
### 短期受入 (3カ月 - 1年)



留学・研修目的の達成度 (満足度)

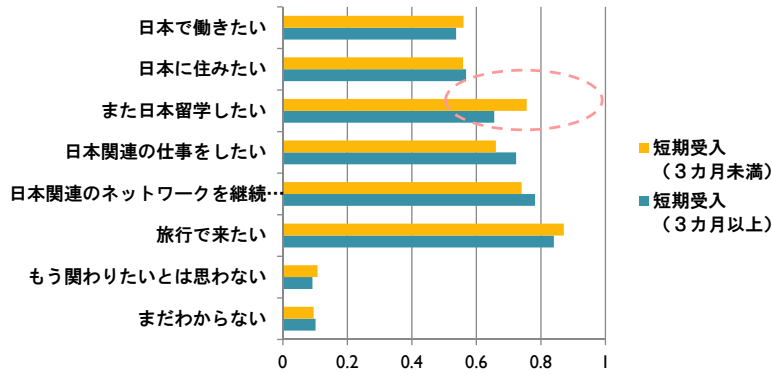
## 受入2013

- ① 居住場所(宿舎)の設備・環境
- ② 大学へのアクセス
- ③ 物価
- ④ 食事
- ⑤ 宗教・文化上の配慮
- ⑥ 健康・衛生管理
- ⑦ 授業やプログラムの内容
- ⑧ 学校の設備・学習環境
- ⑨ 受入校の教員の指導・支援
- ⑩ 受入校の職員の支援
- ⑪ 日本人学生との交流
- ⑫ 外国人学生との交流

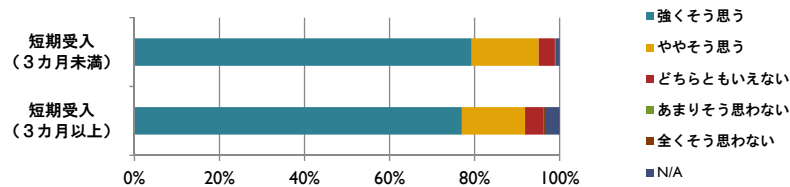


日本への短期留学における受入れ環境の満足度 (10点満点)





将来日本とどのように関わりたいと思いますか？  
(複数回答可)



同級生、後輩等に日本留学を勧めたいと思いますか？

## 短期派遣(3カ月未満)の傾向分析

派遣2011・2012

- 学生の背景や条件の違いに基づく、アンケートデータのクロス分析結果に基づく -

- 海外旅行未経験者の割合が高い → 海外留学の動機づけ
- 高学年参加者ほど以下の項目を実感
  - ・ 専門分野の知識習得
  - ・ 海外の学問の水準や方法の理解
  - ・ 外国語での研究発表や議論の仕方の向上
- 低学年参加者ほど以下の項目を実感
  - ・ 語学への勉強のモチベーションの向上
  - ・ 語学力の能力が向上
  - ・ 学業成績の向上
  - ・ 自らやるべき課題を見つけて率先して取り組むことができるようになった
- 留学・研修期間が2週間以上では北米、西ヨーロッパ、2週間以内ではアセアンに行く学生の割合が多い
- 留学・研修期間が長いほど以下の項目を実感 (2週間以上)
  - ・ 語学力の向上
  - ・ 学業成績の向上
  - ・ 困難を自力で乗り越える力量の向上
- 北米・西ヨーロッパ・オセアニアへの留学では以下の項目をより実感
  - ・ 語学力の向上
  - ・ 外国語で発言する勇気や慣れ
- インターンシップの実施は2週間以上のプログラムの方が多い

## □短期派遣(3カ月-1年)の傾向分析

－学生の背景や条件の違いに基づく、アンケートデータのクロス分析結果に基づく－

- 海外旅行経験者の割合が高い
- 専門分野の知識習得、海外の学問の水準や方法の理解、専門用語の習得を実感
- 語学力の向上、外国語での研究発表や議論の仕方の向上を実感
- 異文化間コミュニケーション力、日本人の自覚の向上を実感
- 進学・就職についての意識の向上などを実感
- 困難を自力で乗り越える力量の向上、視野の拡大、海外の人間関係・人脈の構築を実感
- 学業成績の向上を実感
- 北米、西ヨーロッパに行く学生の割合が多い
- 低学年参加者ほど以下の項目を実感
  - ・学業成績の向上
- 高学年参加者ほど以下の項目を実感
  - ・海外の学問の水準や方法の理解
  - ・専門用語の習得
  - ・専門の勉強へのモチベーションの向上
- 期間が長いほど以下の項目を実感（6ヶ月以上）
  - ・専門分野の知識習得
  - ・海外の学問の水準や方法の理解
  - ・専門用語の習得
  - ・外国語での研究発表や議論の仕方の向上
  - ・留学先国の学生・社会人との交流を通じた人間理解
  - ・留学先国に関する知識の獲得
  - ・日本文化・日本人としての自分についての意識向上
  - ・将来の方向性をつかむきっかけ
  - ・外向き思考（国際志向性）の高まり

## □短期受入(3カ月未満)の傾向分析

－学生の背景や条件の違いに基づく、アンケートデータのクロス分析結果に基づく－

- 受入れ学校種別
  - ・理系学生は国立大学への受入れがやや多い（全体平均64%に対し、約70%）
  - ・北米・西ヨーロッパからの受入れは、私立大学が多く、アセアン諸国、韓国、台湾からの受入れは国立大学が多い
- 留学開始時の学年
  - ・文系が学部1・2年（全体の40%）と学部3・4年（全体の40%）に集中しているが、理系は学部3・4年（43%）と修士課程（31%）と高学年に動いている。
  - ・北米、韓国、オセアニアからの受入れは、学部（それぞれ78%、80%、89%）に集中するが、中国、台湾、アセアン、ヨーロッパは、修士課程の学生参加が25%を超える。
- 留学中のインターンシップ経験者は、文系12%に対して、理系学生は35%。
- 日本語講座
  - ・文系学生の70%が受入れ大学等における日本語講座を受講しているが、理系学生は30%に留まっている。
- 留学の効果
  - ・低学年参加者ほど、異文化間コミュニケーション力の向上、生活習慣・文化の違いを認識し、語学（日本語または英語）勉強のモチベーション向上を実感
  - ・高学年参加者ほど、学業関連（専門分野の知識、専門の勉強へのモチベーション）、進学・就職関連、人脈の構築の効果を実感
  - ・日本語力は学部参加が、効果をより実感。
- 社会人基礎力と異文化理解・活用力の自己評価
  - ・対象者の40%以上が各項目の能力の向上を実感しているが、アジア地域（中国、台湾、韓国、アセアン諸国）は、向上を評価している割合が約20%以上高い。
- 留学目的の達成度（満足度）
  - ・高学年参加者ほど、達成度（満足度）が高くなる傾向

－学生の背景や条件の違いに基づく、アンケートデータのクロス分析結果に基づく－

- 受入れ学校種別
  - ・理系学生は国立大学への受入れが圧倒的に多い(全体平均65%に対し、約80%)
  - ・北米からの受入れは、私立大学が多く、アセアン諸国、オセアニア、東ヨーロッパからの受入れは国立大学が多い
- 留学開始時の学年
  - ・文系が学部3・4年(全体の63%)に集中しているが、理系は学部3・4年(全体の41%)と修士課程(全体の48%)と、高学年に動いている。
  - ・北米、韓国からの受入れは、学部3・4年(それぞれ83%、75%)に集中している。
  - ・修士課程の学生受入れでは、アセアン諸国、西ヨーロッパからの受入れ割合が高くなる(それぞれ44%、43%)
- 留学中のインターンシップ経験者は、文系14%に対して、理系学生は31%。
- 留学の効果
  - ・低学年参加者ほど、語学関連の効果を実感
  - ・高学年参加者ほど、学業関連(専門分野の知識、専門の勉強へのモチベーション)、進学・就職関連、人脈の構築の効果を実感
  - ・日本語力は学部参加が、効果をより実感。
- 社会人基礎力と異文化理解・活用力の自己評価
  - ・対象者の50%以上が各項目の能力の向上を実感しているが、アジア地域(中国、台湾、韓国、アセアン諸国)は、向上を評価している割合が10%以上高い。
- 留学目的の達成度(満足度)
  - ・高学年参加者ほど、達成度(満足度)が高くなる傾向

## 評価分析の結果に基づく海外留学支援制度への評価および効果

- 利用者(学生および学校)の満足度が高い
- 本制度の効果として、学生への海外体験の提供、語学力・学力・社会人基礎力に関わる幅広い能力の向上、大学の国際化等に貢献
- 行政レビューのコメントで見直しの必要が指摘された3カ月未満の短期留学対象事業について、3カ月以上とは異なる意義：
  - ・より多くの大学・高等教育機関、様々な学部・大学院が参加する、多様な留学プログラムを提供
    - 制度の裾野を大きく広げている
  - ・留学生交流やグローバル人材育成の更なる推進のため、3カ月未満の留学とそれ以上の期間の留学、それぞれの長所を生かすことが望ましい
- 成果検証のためには、報告書等、評価・分析(フォローアップ)に必要なデータ等を適切かつ確実に収集し、評価分析を継続すべきことが望ましい